



歯周病(歯肉炎・歯周炎)って?

歯に付着した歯垢や歯石の中の細菌によって、
歯茎や歯を支える周辺組織が炎症を起こす病気。

歯肉の炎症を歯肉炎といい、歯肉の下の歯を支える歯周組織の炎症を歯周炎といいます。
この2つを合わせた病名の総称を歯周病と呼びます。

主な 症状

- 口臭がひどくなる
- よだれの量が増加する
- 痛みによる食欲不振 など

歯周病の症状はさまざまで、程度によって異なります。正常な歯肉はピンク色ですが、歯周病では歯肉の赤み・腫れ、出血がみられます。また、歯周病は炎症を起こした部分から細菌が侵入して血流に乗って運ばれ、心臓や腎臓、肝臓にまで病気を引き起こすおそれもあります。



歯周病・歯肉炎
(歯肉の赤み、歯石の蓄積)

主な 原因

歯周病の原因は歯垢(プラーク)や歯石の中の細菌とされています。細菌そのものや細菌の出す毒素によって歯肉炎が起こり、さらに進行すると歯の根元の歯周組織にまで炎症が広がり歯周炎となります。糖尿病などの慢性疾患や猫白血病ウイルス(FeLV)感染症や猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症などによって、猫の免疫力が低下している状態だと歯周病になりやすくなります。



治療と 予防法

まずは、口腔内をよく調べて、歯肉の炎症程度、歯石の付着程度、歯そのものの健康状態などから判断し、歯石除去や抜歯、投薬などの必要性を判断します。治療は、麻酔をかけられる健康状態であれば、歯石除去処置をします。スケーラーで歯石・歯垢をきれいに落として、抗生剤・抗炎症剤などを投与します。ぐらついていたり、歯根部が化膿しているような歯は抜歯します。

<予防法>

口の中に食べかすや歯垢がたまると、カルシウムなどが沈着し歯石を作ります。歯石は歯肉炎の原因になるばかりでなく、細菌を増殖しやすくしてしまいます。このような環境を作らないようにするためにも、歯磨きの習慣をつけましょう。歯石除去の時期につきましては、かかりつけの獣医師に相談しましょう。



3歳以上の猫の80%近くが歯周病にかかっているといわれています。写真は、歯周病により、上の歯に歯石が多量に付着して歯肉が赤く腫れた状態。このくらい歯垢や歯石が付いているときは抜歯による治療を行うのが一般的です。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

ねこのきもち

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**